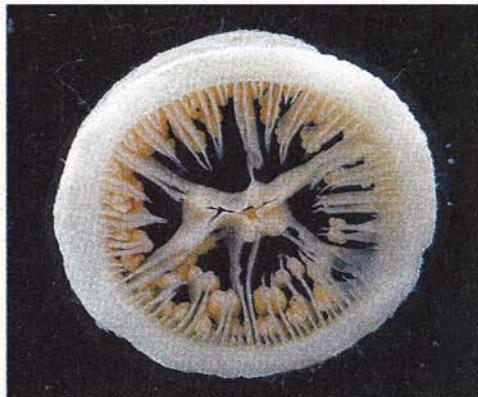


オオカワリギンチャク

変わった特徴を持つオオカワリギンチャク（水槽番号3002）



輪切りにしたオオカワリギンチャク

体を輪切りにするところに変わった特徴が見えてくる。体の周囲から内側に向かって体内をいくつもの部屋に仕切る長短の隔膜が伸びている。この出来方と配列がユニークなのだ。

カワリギンチャクが若いころには六対の隔膜しか持っていない。このうち前後を示す向かい合わせの二対を除いて、側方

に、外敵から身を守るために隔膜を収縮させて体を丸めるのに使う。白浜水族館では、さまたまなカワリギンチャク類が同居する水槽を、生息地に合わせて水温15度に調整している。このため、冷水性で北日本産のヒダベリイソギンチャクなどと一緒に飼育できるのである。

（京都大学准教授）

水族館へ行こう！

京都大学白浜水族館

和歌山市から串本町にかけて59種のイソギンチャク類が生息している。この数は日本で知られるイソギンチャク類の半数に相当する多さだ。白浜水族館では、やや

深みに生息する鮮やかなレモン色したオオカワリギンチャクが飼育展示されている。オオカワリギンチャクは日本固有種で、白浜とその周辺海域を含む限られた海域でし

か発見されておらず、他の水族館ではほとんど飼育されていない。

カワリギンチャクの名前の由来は、他のイソギンチャク類と違う特徴を多く持つためである。

普通のイソギンチャク類は岩から無理やり引きはがそうとするが、根元のところがざっくりちぎ

たく発達していないためだ。これもその変わった特徴の一つである。

特の分類群にまとめる由縁である。最終的には触手の数と同じ隔膜を作り上げ、体内での消化効率を良くする

47

久保田信

にある四対の隔膜の内側にだけ次々と新しい隔膜を増設しながら成長する。このような増やし方は、他のイソギンチャク類に見られない。カワリギンチャクの仲間を内腔（ないこう）類という独立

変わった特徴多く持つ

るとともに、外敵から身を守るために隔膜を収縮させて体を丸めるのに使う。

白浜水族館では、さまたまなカワリギンチャク類が同居する水槽を、生息地に合わせて水温15度に調整している。このた

め、冷水性で北日本産のヒダベリイソギンチャクなどと一緒に飼育できるのである。